

生徒、教職員、PTA、地域の4者が一体となった教育環境の充実

防府市立桑山中学校PTA

1 学校・地域の概要

(1) 学校の概要

本校は、生徒数648名、22学級の防府市で最も規模の大きい中学校である。校区内の4つの小学校から生徒が入学し、活気にあふれ充実した学校生活を送っている。生徒は落ち着いており、学校行事や部活動、学習に意欲的である。特に、運動会や文化祭などは、生徒が積極的に人間関係を育み社会性を培う行事として、保護者や地域の方の協力を得て盛大に開催され、生徒も楽しみにしている。

一方で、生活経験や学習経験が異なる生徒集団であるため、人見知りの生徒が多く、時間をかけずに心を開くことや、感謝の気持ちを表現できるようになることが課題となっている。

(2) 地域の概要

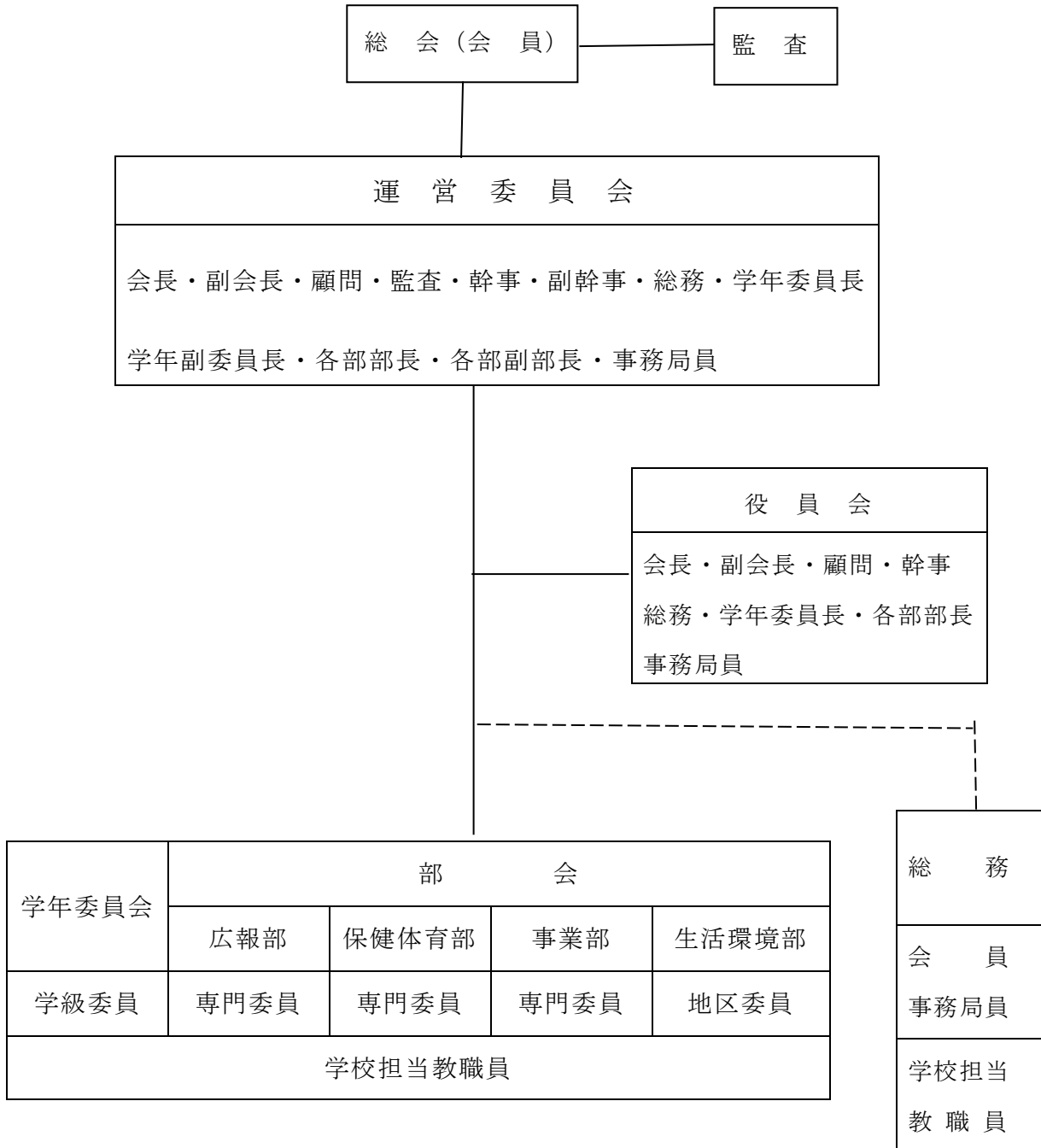
本校のPTA活動は大変盛んである。また、コミュニティ・スクールとなってからは、保護者だけでなく、PTAのOG・OBを含む多くの地域の方々の参加もあり、より活発な組織ができています。また、PTAの各部門の代表者の献身的な取組と、それを支える保護者や地域の方の協力により、これまで多くの成果をあげてきた。

一方で、保護者の多くが仕事に就いているため、PTA活動と仕事の両立が負担になるケースがあり、持続可能なPTA活動のあり方を模索することが課題である。



PTA・地域ボランティアの参加・協力による教育活動

桑山中学校 P T A 組織図



*運営委員会、学年委員会、各部会が中心となって、行事の企画、運営を行い、総合に協力し合う体制が整っている。

3 研究テーマについて

(1) 研究テーマ

生徒、教職員、P T A、地域の四者が一体となった教育環境の充実

(2) テーマ設定の意図

本校は平成29年度から新校舎となり、新しい施設で教育活動を推進している。各教室には冷暖房やI C T機器が完備されており、教育設備も充実している等、教育環境は大変快適である。

しかし、4年目を迎え、汚れが見える教室もでてきており、教室環境の整備の問題が浮き彫りになってきた。さらに、今年度はコロナ禍という状況で、行事等の教育活動にも制限がかかり、活気にやや陰りが見えていた。これを機に生徒や教職員が自分は今まで恵まれた環境であったことに気づき、その学習環境をいかに維持・改善していくかが今後の課題である。また、この課題を解決していくことが、学校目標の「志をもち、心豊かでたくましい生徒の育成」の実現につながると考えている。この課題解決のためには、保護者や地域の協力を得て、生徒、教職員、P T A、地域の四者で創り上げることが大変重要である。

そこで、現状の環境に甘えることなく、生徒、教師、保護者、地域の四者が一体となって桑山中学校のよりよい教育環境をつくることを本年度も研究テーマとした。「人が環境をつくり、環境が人をつくる」といわれるが、生徒、教職員、保護者それぞれが地域を巻き込みながら、持続可能な活動を進め、中学校のよりよい教育環境をつくり、その教育環境の中でめざす生徒を育てる。このことを通して、四者が学校運営に積極的に参画し、学校文化の創造に寄与することをめざした。



(3) 実践事例

今回の助成金を活用した実践として、「花飾りプロジェクト」「緑化プロジェクト」の2つを紹介する。この実践を通して、生徒に自分たちの環境を支えている方の存在に気づかせ、感謝の気持ちをもたせたい。また、保護者や地域の方と同様な作業や活動をすることで、「チーム桑山」の意識を高め、教育環境の充実と学校文化を一緒に作る場の設定をめざした。

4 活動内容

(1) 花飾りプロジェクト

本校では、毎週火曜日に、PTAと地域ボランティアが連動した「花飾りプロジェクト」を行っている。本プロジェクトは、当時の古い校舎を少しでも美しくし、生徒が過ごしやすい環境にしようと平成28年度途中から始まった。花があることが当たり前でなく、自分たちの学校を支える人の存在に気づくこと、感謝の気持ちをもたせることで、自分たちが過ごす環境は、自分やそれを支える人々で作られていることを学ばせることをねらいとした。

このプロジェクトは、まず各教室から回収した花瓶に新しい花を生けることから始まる。自分たちで花瓶を洗い、水の冷たさ、作業の煩わしさを肌で感じながら、そういう作業を自分たちのためにしてくれる人の存在に気づくことで、飾られている花の見えないヒト・モノ・コトに気づく力を養うことができると考えた。

また、生徒会整備委員会がこのプロジェクトを全校生徒に紹介する活動や、生徒が生け花づくりに参加し、各クラスに華を届ける活動にも取り組んだ。実際に地域の方々と交流したり、ともに活動する中で日頃の感謝の気持ちを言葉で伝えたりすることをおして、この活動を身近に感じ、花を大切にするという雰囲気育てようと活動を進めた。

成果としては、花飾りプロジェクトに関わる人々の励みや達成感につながったこと、生徒が花を通して教師以外の大人と関わることができたことが挙げられる。「花があるから美しく素晴らしい教育環境である」のではなく、「花や花に関わる人の存在を感じ、花がある環境を大切にしたいと思う心の通う環境が、素晴らしい教育環境である」ことを具現化することができた。



(2) 緑化プロジェクト

花飾りプロジェクトを参考に、ガーデニング部の生徒を中心に学校花壇の植栽や灌水、除草といった花壇を管理する緑化プロジェクトも行った。毎日、ボランティア当番となった生徒が水やりを行い、状況に応じて除草作業や苗の植え替えを実施している。季節によって苗の植え替えをしながら、1年間を通して校内外に季節を感じさせる花がある環境づくりをめざした。



成果として、生徒が登下校中に花壇を見ることによって季節を愛でる感性や自分たちの学校をきれいにしたいという愛校心を育むことができた。



5 成果と課題

(1) 成果

保護者や地域の方々が、学校の教育活動に参画する機会を多くもつことで、子どもの成長を間近で感じ、学校との距離を縮めることができたといえる。生徒にとっては、自分たちを支える人々の存在に気づき、感謝の気持ちを高めることで、学校や地域を愛する心を育むことができた。教職員にとっては、PTAや地域ボランティアの協力を得て教育環境が整備されることで、気持ちや時間に余裕が生まれ、その分を教育活動の充実に充てることができた。さらには、保護者や地域ボランティアの存在を教職員が常に意識し、学校教育が教師だけの力では成立しないことを実感できた。

(2) 課題

今年度のPTA活動を振り返ると、新型コロナウイルス感染症対策の影響で、縮小傾向であったことは否めない。しかし、できる範囲内で子どもの教育環境を高めたいという保護者の思いから、急な招聘や依頼も多く、一部の保護者に負担が偏る現状が存在した。今後は、今ある活動が生徒や保護者にとって本当に必要な活動であるかを精査し、持続可能なPTA活動をめざし取り組むことが今後の課題である。活動自体もPTAだけでなく、生徒とPTAとが共同で活動する場を工夫して設け、世代ごとの考えを交換しあったり、世代を超えて共感できる体験を企画・運営したりすることで、より豊かな学校環境づくりに取り組んでいきたい。